第1部

次世代の主役となる若者の皆さんへ
―変化する社会における社会保障・労働施策の役割を知る―

はじめに

次世代の主役となる若者[*1]の皆さんへ

社会保障や労働施策と聞いて、どのようなことをイメージしますか？

具体的に何か制度などを思い浮かべる人もいれば、何のことだかさっぱりだという人もいるでしょう。今の皆さんにとって、あまり馴染みのない言葉であるかもしれません。

でも、皆さんの中には、就職や進学を機にひとり暮らしをして生活をしていく予定の人、またはすでにしている人もいるでしょう。また、成年年齢が18歳となり、高校生でも、18歳になれば、親の同意を得なくても一人で契約ができるようになります。皆さんは自分のことは自分で決められる自由を手にする一方、一定の責任が求められます。

しかし、今後の長い人生の中で、例えば、病気になったり、怪我をしたり、仕事がうまくいかなくなったり…と様々なことが起こる可能性があります。そのときに皆さんに知っていてほしいのが、「社会保障」や「労働施策」の存在です。これらがきっと皆さんの生活の支えになるからです。これらの制度を使うこと、ルールに守られることは、皆さんの権利です。ぜひ、「社会保障」や「労働施策」を知ってほしいと思っています。

「今やっていること以外にも勉強しないといけないの？毎日、学校の宿題、テスト勉強、部活、塾、バイトなどで忙しいし、これ以上勉強する暇なんてないよ」
と思う人もいるかもしれません。でも、社会保障も労働施策も皆さんにとってとても大切なこと。テスト前のようにたくさん勉強したり、暗記したりする必要はありません。

「たしか、生活に困ったときに、助けてくれる制度があるって見たな。市役所かどこかに相談できたような…でもよく覚えていないから調べてみよう」

「あまり細かいことは覚えてはいないけど、バイトでも働くときのルールで守られているはず。こんなに長い時間働いているのに、店長に頼んでも一度も休憩がもらえないなんておかしい。相談できる場所があったはずだから、相談してみようかな…」

難しければ、最初はこの程度でもかまいません。

皆さんが困難に直面したときに、自分で必要なことを調べられたり、しかるべき場所に相談できたりする力を身につけること。これがまず一番大切です。

社会保障については、初めから細かいことを覚える必要はなく、なぜこれらの制度が必要なのか、どのように私たちの生活に役立っているのか、ということなど、まずは大きな流れを理解してほしいと思っています。

労働施策については、すでにバイトをしている人、近いうちにする人もいると思うので、バイトであっても労働法（働くときのルール）に守られ、トラブルに遭ったら、相談できる場所があることを知っておいてほしいと思っています。

これらを知っているだけでも、皆さんが困難に直面したとき、きっと助けになるはずです。

このくらいなら、皆さんの忙しい毎日の中でも大丈夫だと思いませんか？

今回の厚生労働白書では、第１章では社会保障や労働施策の役割について、データも踏まえてまとめています。現在、人口減少・超高齢社会が急速に進展する中で、「全ての世代で社会保障を支え、社会保障は全ての世代を支える」という考え方に基づいて、社会保

＊1　本白書では、高校生、大学生、社会人になったばかりの方を念頭に若者という言葉を使用している。

障の見直しも進められています。こういった点についても今回の白書では示しています。

第2章ではこれらを知ることの意義についてまとめています。具体的なエピソードなどを盛り込んでいますので、「たしかに、こういうことって自分の将来や自分の周りで起こりそうだよな」と思ってもらい、少しでも社会保障や労働施策を身近なものに感じてもらえればと思います。

学校の行き帰りの電車の中や勉強の息抜きになど、いつでもどこでも読めます。一日少しずつで大丈夫です。たくさん読みたくない、ということなら、下の読み方ガイドを見て、興味を持てそうなところだけでも十分です。ぜひ一度、読んでみてください。きっと皆さんの将来の助けになるはずです。

若者以外の皆さんへ

今回の厚生労働白書は、次世代を担う若者に、今後の人生において必要となるだろう社会保障や労働施策について知ってもらいたい、自分事として考えてもらいたいという思いから、なるべく若者に届くような平易な形で作成しました。

しかし、社会人になってしばらく経った方であっても、これまでの人生で経験したことのない制度などについては、あまりご存じない方も多いのではないかと推察します。皆さんにとっても、詳しく知らない分野を知る一助になると考えられるので、ぜひ一度、手に取って読んでいただければと思います。そして、身近にいる高校生、大学生や社会人になったばかりの若者に上記「次世代の主役となる若者の皆さんへ」のメッセージとともに、本白書を紹介いただけますと幸いです。

また、第3章では厚生労働省などが推進している社会保障教育や労働法教育のこれまでの取組状況とこれからの方向性について紹介しています。

社会保障や労働施策について知り、そして考える機会は、学校などの教育現場だけでなく、地域や職場、家庭においても大変重要です。本章によって、現在の取組みについて理解を深めていただき、今後の推進にご協力いただければ幸いです。

＜読み方ガイド＞

興味・関心に合わせた読み方を以下に記載します。一部分でも良いので、是非読んでみてください。特に読んでほしいのは、第2章第2節です。

●社会保障とはどのようなものがあるのか、なぜ必要か知りたい場合
→第1章第1節　社会保障の役割

●労働施策とはどのようなものがあるのか、なぜ必要か知りたい場合
→第1章第2節　労働施策の役割

●社会の状況の変化（人口減少・超高齢社会）について知りたい場合
　社会の変化に合わせた社会保障・労働施策の方向性（全世代型社会保障への見直し）について知りたい場合
　→第１章第３節　人口減少・超高齢社会とこれからの社会保障・労働施策

●他の若者が社会保障や労働施策について、どう考えているのか知りたい場合
　→第２章第１節　若者の社会保障・労働施策に関する意識

●なぜ自分たちが社会保障や労働施策を知るべきなのか知りたい場合
　→第２章第２節　社会保障や労働施策を知ることの意義

●なぜ社会保障教育や労働法教育が取り組まれるようになったのか知りたい場合
　社会保障や労働施策を学べる教材について知りたい場合
　→第３章第１節　社会保障教育・労働法教育に関するこれまでの検討状況

●社会保障教育の授業や労働法教育のセミナーなどが、具体的にどのように行われているのか知りたい場合
　→第３章第２節　現場における取組状況

●個別の政策分野（年金、献血、薬害）に関する教育について知りたい場合
　→第３章第２節　現場における取組状況　４　個別の政策分野における取組み

●今後、社会保障教育や労働法教育はどうなっていくのか知りたい場合
　→第３章第３節　今後の方向性

教育現場や職場などで本白書の内容を活用したい場合

　教育現場や職場などで、「社会保障」や「労働施策」について、簡単に知っていただくことができるよう、厚生労働省のホームページに、第１章を中心にわかりやすくまとめた「別冊版」を掲載することとしています（2025（令和7）年9月頃に掲載予定）。誰でも自由に、そのまま教材として利用することができますので、ぜひご活用ください。

（URL：https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/）
ホーム ＞ 統計情報・白書 ＞ 白書、年次報告書